

剣風



事務局 〒330-0074
さいたま市浦和区北浦和5-6-5
浦和合同庁舎4階
Tel (048)834-8869
Fax (048)834-8879
<http://www.saitama-kendo.or.jp>
(編集責任者 奥田昌利)

第12号 平成29(2017)年7月30日発行

(題字 元会長 野澤 治雄)

ごあいさつ



公益財団法人 埼玉県剣道連盟 会長 山中 茂樹
(剣道範士8段)

このたび、理事会で選任され会長に就任いたしました。よろしくお願い申し上げます。

多くの先輩先生方が限らない英知と情熱、惜しみない努力で築き上げられた連盟の伝統と業績を引き継ぎ、前進、発展させなければならない責任の重さを痛感しているところでございます。

私も、先輩の会長方が掲げられていた「裾野はより広く、頂はより高く」を目指し、会員皆様と共に交剣知愛の輪を広げ、師弟同行を旨とし、上に習い、下に学ぶ、共習共導の文化を実践し、安全で健康な生涯武道の実現を図って、連盟の前進充実に微力ながら努力したいと考えております。

その実現のために、昨年度各部会で行った事業の運営や活動の総括を踏まえ、本年度への継続事業または新規事業の目標を策定して、運営実行に当たらなければなりません。

具体的には連盟組織を充実させ、加盟団体とのより密接な連携を図ってまいります。武道は素晴らしい、楽しいものであることを啓発しながら三道の普及発展に努めます。武道を正しく伝承するために初心者をはじめとした一般会員、女性、高齢者などを対象とした講習会や指導者、高段位受審者、審判員、審査員などの研修会・講習会、全国大会その他県外派遣に向けての強化会・稽古会、安全管理に対する研修会・講習会などを取り入れ鋭意連盟の前進発展に寄与したいと思っております。

この目標のために・総務部会・広報啓発部会・公Ⅰ部会（県内大会・講習会・審査会など担当）・公Ⅱ部会（予選会・強化・稽古会など担当）がそれぞれの立場で英知を集めるとともに、四部会が共に理解、協力して、より良い方向性を見出し、心を一つにして運営に携わっていかねばならないと思っております。

会員の皆様方にはご理解とご協力、お力添えをいただきますよう、また現場の声を忌憚なくお聞かせいただけますようお願い申し上げます。

平成29～31年度 公益財団法人 埼玉県剣道連盟役員（順不同）

名誉会長	大久保和政	相談役	水野 仁	顧問	茂木 廣次・関口 善行
会長	山中 茂樹（加 須）				
副会長	◎栗原 憲一（狭 山）	◎齋藤 茂樹（加 須）	◎奥田 昌利（ 蕨 ）	◎川合 育三（熊 谷）	
専務理事	◎増田 吉男（草 加）				
理事	矢部 勇介（越 谷）	片山 剛（春日部）	加庭栄之助（久 喜）	島崎 隆男（所 沢）	
	◎吉野 英明（東入間）	尾崎 勝美（川 越）	藤牧 守芳（飯 能）	爲谷 健一（東松山）	
	小倉順二郎（川 口）	内田 明（朝 霞）	豊嶋 正夫（浦 和）	佐藤 義則（浦 和）	
	中村 好一（大 宮）	林 貞次（上 尾）	河野喜八郎（鴻 巣）	田中 宏明（北 本）	
	荒井喜久男（本 庄）	高橋 徹也（秩 父）	大澤 規男（警 察）	原 義克（高 校）	
	佐藤 忍（居合道）	瀧澤 利行（杖 道）	宮下 達也（北 本）		
監事	會田 紳次（浦 和）	柳澤 昌弘（上 尾）			
評議員	山田 守男（草 加）	中村 豊孝（八 潮）	小川 俊文（越 谷）	増田啓三郎（吉 川）	
	伊藤 徳男（春日部）	横山 久夫（杉 戸）	甲田 侃（久 喜）	菊地 一男（幸 手）	
	千葉 達也（加 須）	秋谷 庫治（羽 生）	加藤 輝男（行 田）	荒井 信義（所 沢）	
	津野 眞生（東入間）	松井晴太郎（狭 山）	石橋 光好（入 間）	大久保勝示（川 越）	
	大釜鉄太郎（飯 能）	石井 利幸（西入間）	長峰 一雄（東松山）	中嶋 秀雄（小 川）	
	齋藤 俊博（川 口）	水島 繁（ 蕨 ）	上野 勇仁（戸 田）	千葉 光三（朝 霞）	
	吉田 聰（浦 和）	西脇 民雄（大 宮）	田中 章（上 尾）	上野 義光（鴻 巣）	
	柳瀬 浩美（北 本）	小島 康夫（熊 谷）	小久保 博（深 谷）	清水都留吉（寄 居）	
	椎塚 雅司（本 庄）	岩田 信行（秩 父）	日野原 進（小鹿野）	関口 啓一（警 察）	
	坂井 順司（高 校）	穂田 清（大 学）	村田 健（居合道）	齋藤 力夫（杖 道）	

◎業務執行理事

副会長・業務執行理事・専務理事挨拶

今年度の抱負

副会長（総務部会） 奥 田 昌 利



29年度がスタートし、総務部会として、まず取組むべき案件として、昨秋来喫緊の課題として検討を重ねてきた「財政検討会」の議論を踏まえ、財政基盤の確立と収支改善を目指し、10項目からなる各事業別予算執行方式（既に一部は実施中）の内容を精査検討しながら推移を見守ってゆくことが大切である。

これは、かねて財政運営への懸念（監査報告等による指摘）を受け止め、公益法人として収支相償の原則に従う上で重要なことであり、今年度予算に反映させながら積極的展開を図りたい。

次に、次代を担う少年剣道の育成に関し、「幼少年初心者剣道指導者講習会」については、少子化による剣道人口の減少傾向著しい中での対応が必要であり、従来の指導の本筋を外すことなく、創意工夫を含む指導法の確立が求められている。

その点で、地域の研究的取組みを促し、その集大成を全県に波及するよう、先進的事例の把握も重要となる。

一方、本連盟毎年の事業であり、各支部の自主事業である「初心者教室」の指導カリキュラムとして活かすことも必要とされる。

今後、これらを含む総務部会の諸課題に対応しつつ前進したい。

副会長就任にあたって

副会長（公一部会） 栗 原 憲 一



このたびの埼玉県剣道連盟の役員改選にともない山中新会長のもと四名の副会長の一人として、再び公1事業担当の副会長として就任することになりました。

公1部会は講習会、県内大会、審査会の事業について担当します。正副会長、専務理事、事務局長、事務局の皆様、公1担当理事の協力を得ながら各事業をより良い方向に努力していききたいと思います。

具体的には四地区講習会、女子講習会等で多くの参加をうながし、審判法、日本剣道形、指導法により日本伝統の剣道を確実に伝えていくこと、高段位受審者講習会では内容の充実と参加者の拡大による全国審査の合格率を上げること、そして県内大会の埼玉県剣道大会、四地区親善剣道大会、高齢者剣道大会等の大会の安全に考慮し健康と生きがいのある大会にすること。段級位審査会においては審査内容の充実と受審者が安心して審査を受けられるように共通マニュアルの徹底することです。盛りだくさんの課題がありますが少しずつでも向上していければと思っています。

会員の皆様には自らの剣技の向上と子供達や後輩の指導を通して、埼剣連の活動に積極的な参加御協力をよろしくお願い申し上げます。

副会長就任にあたって

副会長(公二部会) 齋 藤 茂 樹



このたび、役員改選により副会長に就任いたしました。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

連盟の事業は、総務・公1・公2・広報の4部会で執行されており、公2部会を担当することになりました。

公2部会は理事6名で構成され、各種全国大会予選会・強化練習会・稽古会等を主に担当しています。

予選会は年間数多く開催されており、予選会の円滑な運営が望めます。また、強化練習会においては、指導陣とより充実した強化を図り、成果を挙げられるよう取り組んでいきたいと思ひます。昨年から県主催の稽古会を増やし、会員相互の技量向上を目指しています。今後も継続して実施していき、数多くの参加者を得られるよう、各加盟団体にも協力をお願いし、ますます盛んになっていければと考えています。力不足ではありますが、「交剣知愛」の精神で山中新会長を助け連盟の運営・発展に努めてまいります。

副会長としての抱負

副会長(広報・啓発部会) 川 合 育 三



歴代会長をはじめとする役員の皆様の英知と身を粉にしたご努力により今日の輝かしい本県連盟が築き上げられてきました。

この度、役員の一人としてその運営の任に当たらせていただく責任の重さを感じているところであります。

本連盟の掲げる目的に向けて、分担された各部会がそれぞれに連携を図りながら施策が推進されているところでありますが、この組織の働きがよどみなく力強く進むよう潤滑油としての役割を果たしていくことでお役に立てるよう努力する所存ですので宜しくお願い致します。



業務執行理事就任にあたって

業務執行理事 吉 野 英 明



梅雨を迎え、いよいよ夏の季節となりました。剣友の皆様には、ますます御健勝で御活躍のこととお喜び申し上げます。

この度任期満了に伴う役員改選に伴ない私こと、理事会の御推挙により、業務執行理事の重責を拝することになりました。よろしくお願い申し上げます。

さて、埼玉県剣道連盟も公益財団法人となり、運営内容の充実化が求められています。現在理事会では四部の事業部会（総務部会・公一部会・公二部会・広報啓発部会）を設置し理事全員がそれぞれの部会に所属参加し、「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」剣道理念に基づく事業運営を展開するよう調査・研究にたずさわって連盟の発展向上を目指し鋭意努力しているところであります。私も本職責に何かと戸惑うことがありますが皆様方の御意見をいただきながら当連盟のますますの伸展のため最善の努力を尽くす所存でありますので、今後とも、より一層の御指導と御交誼を賜りますようお願いいたしまして就任のごあいさつといたします。

専務理事就任にあたって

専務理事 増 田 吉 男



この度、前佐藤義則専務理事の後を受け継ぎ専務理事に就任いたしました。前任者の多大な功績を汚すことなく新会長の下に公益財団法人埼玉県剣道連盟の更なる発展に寄与できるよう、努力してまいります。

少子高齢化といわれて久しいことですが、幼少年からご高齢な諸先輩までの多くの会員の皆さまの地道な努力と活動により、今日の埼剣連の隆盛を支えていただいていることに敬意と感謝を申し上げます。それぞれの年齢や目的・環境に応じた剣道ができることが活性化につながると考えます。

現在、有機的に活動している4部会【総務、公1（講習会、審査会、県内大会等）、公2（選手育成強化）、広報】があります。それぞれを担当されている理事の皆さま方の真剣な議論と行動を拝見していますと、埼剣連の更なる発展と充実を確信するものです。この4部会の施策を一層推進することが大切なことだとも考えています。

もとより浅学非才でありますので、常に感謝の気持ちで忘れることなく、多くの方々のご意見を尊重しながら責務を果たしてまいります。

「大会記録この1年」(2017年前期) 全国大会(上位)入賞結果・県予選会結果(報告)

順不同

◆全日本都道府県対抗優勝大会県予選

(2月5日・埼玉県立武道館)

- ▽次鋒の部 ①新井康平(北本) ②風間颯(大学)
▽五将の部 ①石山邦良(東松山) ②栄花友彦(東松山)
▽中堅の部 ①中山直樹(本庄) ②木野内悠介(上尾)
▽三将の部 ①平野伸一郎(警察) ②篠田康平(警察)
▽副将の部 ①橋本桂一(東松山) ②椎谷博光(戸田)
▽大将の部 ①金田孝行(警察) ②保坂武志(高校)
※▽先鋒の部 井田光哉(本庄一高)

◆全国福祉祭剣道交流大会県予選

(4月9日・埼玉県立武道館)

- ▽60歳以上65歳未満の部 ①手島隆治(熊谷) ②宮良洋次郎(朝霞) ③川上満(杉戸) ③爲谷昇(久喜)
▽65歳以上70歳未満の部 ①甲村龍彦(北本) ②植山泰有(朝霞) ③齋藤俊博(川口) ③島村勉(羽生)
▽70歳以上の部 ①渡辺秀男(東松山) ②川下紘生(久喜) ③伊藤六夫(朝霞) ③小能喜輝(越谷)

◆全日本都道府県対抗女子優勝大会県予選

(4月9日・埼玉県立武道館)

- ▽次鋒の部 ①大島愛寧(大学) ②宮沢彩夏(所沢) ③小島彩加(久喜) ③遠藤知穂(久喜)
▽中堅の部 ①山村貴恵(春日部) ②工藤礼佳(東松山) ③松本実姫(東松山) ③萩原愛子(越谷)
▽副将の部 ①村山千夏(警察) ②椎屋理香(大宮) ③川崎和子(越谷) ③川上美香子(川越)
▽大将の部 ①市村麻美子(朝霞) ②関口敦弥(浦和) ③末武あさ美(川越) ③肥留川由美子(鴻巣)

◆県女子剣道選手権県全日本女子剣道選手権県予選

(5月20日・埼玉県立武道館)

- ①村山千夏(警察) ②志藤綾子(東松山) ③荒井貴子(久喜)

◆国体成年の部県予選

(5月28日・埼玉県立武道館)

【男子】

- ▽先鋒の部 ①図末悠介(東松山) ②川上拓真(警察)
▽次鋒の部 ①足立柳次(警察) ②宮原良太(警察)
▽中堅の部 ①橋本桂一(東松山) ②斉藤洋平(高校)
▽副将の部 ①井口清(警察) ②菊地博之(警察)
▽大将の部 ①原義克(高校) ②島田浩徳(大宮)

【女子】

- ▽先鋒の部 ①志藤綾子(東松山) ②田澤祐佳(所沢)
▽中堅の部 ①荒井貴子(久喜) ②本郷利枝(高校)
▽大将の部 ①村山千夏(警察)

◆第5回埼玉県杖道大会

(6月11日・埼玉県立武道館)

個人戦

- ▽基本の部 ①大竹航平(埼玉杖道部) ②猪井剛(大宮杖道会)
▽初段の部 ①田中智大(埼玉杖道部) ②金旻燦(埼玉杖道部) ③小本喬(東入間支部)
▽二段の部 ①上田花奈子(埼玉杖神会) ②中島佑規子(久喜杖道会) ③加子晏楓(大宮武林会) ③柴崎靖志(久喜杖道会)
▽三段の部 ①笹部慶江(久喜杖道会) ②武藤圭輔(東入間支部) ③加子瑛絵(大宮武林会) ③出口正人(大宮武林会)
▽四段の部 ①杉崎利春(久喜杖道会) ②江口佳寿美(久喜杖道会) ③杉崎かずみ(久喜杖道会) ③畑山良一(大宮杖道会)
▽五段の部 ①並本大介(所沢杖友会) ②朝比奈辰樹(所沢杖友会) ③柏倉有(浦和杖道会) ③加子雅夫(大宮杖道会)

団体戦

- ①埼玉杖神会(先鋒：堀越・中堅：上田・大将：永井) ②久喜杖道会(先鋒：青木・中堅：尾崎・大将：杉崎利春) ③大宮武林会(先鋒：加子瑛・中堅：三山・大将：加子明) ③大宮杖道会(先鋒：田島・中堅：畑山・大将：加子雅)

◆関東高校大会(6月13日・ひたちなか)

- ▽男子団体 ③本庄一高

◆全国高校総体県予選

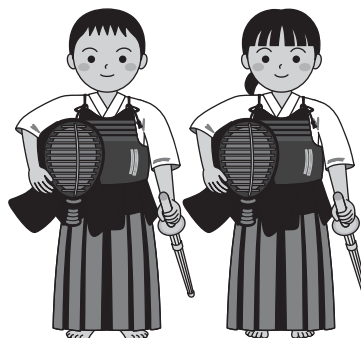
(6月3、19、20日・埼玉県立武道館)

【男子】

- ▽個人 ①中嶋将太(立教新座) ②渡部(立教新座) ③大嶋(埼玉栄)
▽団体 ①本庄一(山本、新井、井田、畑中、泉) ②立教新座 ③大宮東 ③埼玉栄

【女子】

- ▽個人 ①安達小粋(淑徳与野) ②佐藤(本庄一) ③川井(埼玉栄)
▽団体 ①本庄一(土田、櫛淵、佐藤光、佐藤未、板倉) ②埼玉栄 ③淑徳与野 ③伊奈学園



「少年剣道指導実践」

越谷剣道連盟 会長 矢部 勇介

1. 越谷剣道連盟の現状

現在、越谷剣道連盟で少年指導をおこなっている加盟団体は、16団体あります。子供が少なくなっている中で、それぞれの団体指導者が、熱心に指導されて加盟団体数としては数年大きくは変わっていません。こうした中で、特に連盟として定期的に直接少年指導することはしていません。

連盟が少年剣道を指導する場としては、小学生剣道大会、夏季錬成会、優勝胴大会、寒稽古、中高冬季剣道大会などの行事の中で指導を行っています。どれも長く伝統的に続いている行事で、小学生大会は今年で40回を迎え、現在では、埼玉県小学生剣道大会の予選も兼ねています。夏季錬成会も同様に昔からの行事で、4日間加盟団体の子供たちが集まって稽古をします。錬成会後には、勝ち抜き形式の優勝胴争奪の試合をします。寒稽古も連盟指導者が子供たちを指導し、その後一般の大人と一緒に稽古をします。冬季剣道大会は、市内中学高校生が中心に試合をし、その後、指導者も混じって合同稽古を通じて指導をします。この他にも毎年8月に初心者講習会を5日間行い、初級者及び初心者が集まってより剣道に興味を持ってくれる活動も少年指導の一環として行っています。こうした多くの子供たちが集まる機会を通じて行っていることが少年剣道指導の基本となり剣道の普及面をサポートしています。

2. 少年指導の強化育成

少年指導の強化育成指導面は、埼玉県剣道連盟創立50周年記念から始まった、第1回埼玉県小学生大会から、選手を選抜して連盟指導者が指導するようになりました。市内小学生大会と夏季錬成会を融合させ、そこから選抜した子供たちを強化選手として指導する仕組みとなっています。本格的に強化稽古として始めるのは、毎年7月に行う市内小学生剣道大会から始まります。この大会を埼玉県剣道連盟の小学生大会の予選会を兼ねるようにし、3年生以上で、個人戦3位以内入賞者は代表選手、ベスト8入賞者と団体試合3位までに入賞した選手を代表選手候補にします。さらに、夏季錬成会後の優勝胴大会(勝ち抜き戦)において、3人抜きをした選手を代表候補選手に追加して、8月に残り枠を決める最終予選会で代表選手を決めます。当初は、1回の予選会で決めていたましたが、機会を多く与えることで子供たちに頑張ってもらえるということで、このようにしています。選考された時期から日曜日の午後または夕方に連盟指導者と加盟団体の指導者数名が選抜選手強化のための稽古を実施しています。目標は、埼玉県小学生剣道大会優勝、目的は将来に繋がっていく選手の育成として、試合形式の稽古はあまりせずに実践を意識した基本中心の稽古をしています。最初は、加盟団体のそれぞれの選手が集まりますので、稽古内容を理解することに慣れていませんが、回数を重ねることで、理解し全体のレベルアップができます。子供たちは連盟代表選手を目指しているので、一生懸命稽古に取り組んでくれます。選手が決まった8月後半から11月の大会まで、ほぼ毎週日曜の夕方(加盟団体の稽古のない日)を強化稽古に当てて指導します。選手には、一定の時期に一つの目標に向かって、選ばれてきているということを意識させ稽古を行うので、選手自身に上手になっていく実感と保護者には、稽古毎に成長していく子供たちの様子を感じてもらえる稽古にしたいと思っています。回数を重ねることで、子供たち同士の連帯感も生まれ、大会近くになると、とても充実した稽古を展開一つにまとまってくれます。この時期は、厳しい稽古になりますが、ここはまとめの時期なので、指導者も一層の力を入れて子供たちに頑張ってもらえる稽古を

しています。

3. これまでの成果

こうした連盟全体での少年指導を続けてきたことで、子供たち同士の連帯感が生まれ、剣道を頑張ろうという気持ちになってくれ、それに保護者の方々の熱心なご協力もいただき、おかげさまで、県大会ではよい成績を収めさせていただいています。最近では、7月の全日本都道府県剣道大会の県予選会においても代表選手になってくれています。さらに、この強化稽古に参加した子供たちがほとんど剣道を続けてくれ、中学・高校で活躍しているという結果も生んでいます。こうした流れができてきたことは、連盟の活性化に繋がり、剣道が子供たちの成長にも役立っていると感じています。

4. 強化育成指導の中で培ったもの

このような指導をしている中で、常に考えていることは単なる大会で勝つことを目的にするのではなく、一つの大会を目標に集中して稽古する大切さとそこでの達成感を与え、どんなことにも求めていく姿勢を養ってほしいということ意識してやっています。剣道は長く続けて、その成長過程において、その都度学ぶことがたくさんあります。その中でも、少年期の指導は、後々に影響を与える大切な指導です。そうした考えのもと、指導内容は、基本を中心に行いますが、基本をどう実践に結びつけていくかということ子供自身に考えてもらうように指導をしています。まず、自分の姿勢構えを作ることから始まり、素振りの一本一本から試合で一本を意識させた素振りをさせます。切り返しでも、最初の一本から最後の一本が全て有効打突になる打突をしているか、左右面も打突部位に届く打ちをしているか、ということ意識させた指導をします。基本打ちも全て一本になるように、無駄にしないように、一本にならない打ちを打たないということを稽古の中で指導します。また、一本一本気を抜かず打ち、とにかく、自分の打突は全て一本にする意識で稽古させることに集中しています。剣道の指導において、とかく打つことだけの指導になってしまいますが、ここでの指導には、いかにして有効打突を取るかという、打つことだけではない視点も指導に取り入れるようにしています。少年期からいかにして一本取るかということを考えさせることが、これから先に剣道を続けていく上で大切なことかと思っています。具体的には、剣先が触れないところから、一足一刀の間合には入っていくまでにどのような気持ちでいくか、そしてどのように打突を出すか、ということ子供たち自身が意識してくれるように稽古してくれればと思っています。子供たちには、頭で理解して、自分からやって身につけてもらいたいと考え、このような指導にもなっております。日々指導方法・手段は変化していますので、今取り組んでいることが毎年子供たちにどのように理解されていたかを検証して、指導に取り組んでいます。

5. 今後の指導として

越谷剣道連盟には、伝統的に永く続いている行事があります。それが内容的に時代とともに変化し、そして現在に至っています。今後、さらに、この先に繋げていくために、指導者として願うことは、剣道の楽しさを知って育った子供たちが、後々に少年時代から剣道をやってよかったと思ってもらえる指導をしていくことと、将来、指導者になり、さらに若い世代が指導してくれるようにしていくことが、今の我々指導者の使命だと感じています。今回、「剣風」に寄稿させていただき、ご参考になるかどうか分かりませんが、現在の越谷剣道連盟の少年指導の取り組みについてまとめさせていただきました。このような機会をいただきありがとうございました。

「我が師を語る」 範士九段 榎崎正彦先生の思い出

教士七段 伊田 登喜三郎



榎崎正彦先生



ちょうど40年前の昭和52年、愛知県犬山市明治村の重厚な旧第四高等学校武道場「無聲堂」において、第一回明治村剣道大会が開催され、全国から選抜された八段剣士が鎧をけずった。優勝は警視庁か大阪府警かと言われた中、市川彦太郎先生と榎崎正彦先生（以下先生）が決勝にすすんだ。私の古い記憶では、双方1本ずつ取り合いずいぶんと長い攻防が続いた。戦いも膠着の雰囲気があった。始めた時分に鏝競り合いになり、お互いに一歩二歩ずつ後退し一足一刀が交刃の間合いになったとたん、間髪を入れずに榎崎先生の面が炸裂した。会場がわれんばかりの拍手に包まれ、まさかの優勝に私もおおいに興奮した。

大会のまえに怪我をして、稽古不足を「心で勝負する。」と言って出場した先生にとって勝負師の面目躍如、会心の大会であった。また、埼玉の二人の決勝戦は埼剣連にとっても金字塔となった。先生は高名なある先生の助言を受けて、大会の権威を守るため次年度の推薦を辞退した。それほど権威のある大会であった。

先生は大正11年唐津に生まれ、国士舘専門学校を卒業した。先生の若い頃の写真をみると、筋骨隆々としておどろくほど素晴らしい体つきであった。また、軍事教練で全校の指揮官を務めて喉を潰したと言っていた事からも、リーダーシップも相当にあったと思われる。軍隊に入隊した先生は陸軍中野学校に入校した。先生の半期（半年）先輩に、終戦の29年後にルバング島から帰還した小野田寛郎陸軍少尉がいる。帰還後、小野田さんの剣道五段受領に先生は動いた。「あれだけのことをやってきた男に段位を授けていいだろう。」と言った。男気を感じる言葉であった。

先生が所属した部隊の行動をGHQが問題視し、先生はGHQに追われた。部隊の行動は上官の命令であったが、軍事裁判の結果は部隊の行動が先生一人の責任となった。「by death」と死刑判決を聞いたときは、さすがに目の前が真っ暗になったと言っていた。巣鴨プリズンの生活は施設が廃止になるまでの10年の長きに渡った。巣鴨の死刑執行は曜日が決まっていた、その日に廊下を歩く「コツコツ」という看守の靴音が自分の房の前を通り過ぎると、「また一週間、命が伸びた。」とホットしたという話を聞いたことがある。私が学生時代に、巣鴨プリズンに入っている人たちの古い詩集「巣鴨」を渡され、感涙にむせびながら読んだ記憶がある。

このような極限の体験は先生の人生観や剣道に影響を与えたことは想像に難くない。先生は「後ろは崖だと思え。一歩も下がるな。」、常に「打ち切れ。」と指導した。いつも精神を集中して、全力を出し切る稽古、死ぬ気で打つ技を要求した。

「面の榎崎か、榎崎の面か。」と言われたほど先生は面が得意であった。道場では相手が合気になるまで「まだまだ。」と声をかけて打たせなかった。相手は先生の迫力におされ、正眼のままズルズルと下がって道場の壁を背中にして逃げられなくなる。相手が居つくと、ちょっと担ぎ気味の渾身の面が飛ぶのが常であった。相手が壁を背にしてウロチョロすれば、「コチョコチョ動くな」とでも言うような鋭い突きが飛んで来て尻餅をつかされる。合気にもならず、いい加減に面を打っていけば得意の外掛けで道場の床に背中から叩きつけられることもあった。明德館では、先生にいつも合気をいれて掛かっていった。

先生は得意の面を武器に、国民体育大会、都道府県大会、全日本選手権等に数多く選手、監督として出場した。昭和60年、埼玉県で開催された東西対抗では東軍の大將も務めた。このときも、「榎崎の面」が見事にきまった。また、世界選手権で日本剣道形を打つなど、海外へも出かけ剣道の普及発展に貢献した。

稽古は厳しい先生だったが、普段は誰にでも満面の笑みを浮かべて「ヨ、元気か。」と声をかける人間味がたまらない人であった。そんな先生を慕う人たちから、いつしか先生を会長にした会を創ろうという声が出たが、派閥活動とみられることを嫌う先生の許しがでなかった。しかし、周りの熱心な説得に折れ、明德館を稽古場とする「武蔵会」が発足した。武蔵会には県内各地から剣士が大勢集い、活況を呈した。会は全国各地へ剣道具を持って出かけ、その地の剣士と稽古をし、また酒を酌み交わす楽しい会となった。武蔵会には東京から八段を目指す有名な先生方も、榑崎先生の教えを求めてやって来た。なかには、先生の「中段で受験したらすぐ合格だ。」という助言にも、「二刀でがんばる。」という猛者の先生もいた。これらの先生は、皆、八段合格後にお礼稽古にみえていた。剣道の道を見せていただいた気がして頭が下がった。

戦後、病氣療養中の父は自分の代理になる人材をさがし国士館先輩の佐藤顕先生をとおして、巢鴨プリズンから出所し衆議院事務局警務課に勤務していた榑崎先生を推薦された。私が小学校2年生の時である。父は先生に私の教育係も依頼した。以来、剣道ばかりでなく、仕事でも副社長、顧問として親子二代にわたり長い間お世話になった。東松山に引っ越した先生は、富田林治先生（元埼剣連副会長）をはじめ地元の先生方とも非常に仲良く交流をした。昭和62年、父が剣道教士をいただいた。この事に大変喜んだ父はすぐに新道場（現明德館）を建て、国士館時代にお世話になった先生方や同級生をご招待した。小川忠太郎先生、堀口清先生、市川彦太郎先生、森島健男先生をはじめ20名近い国士館専門学校出身の先生方にお集まりいただき盛大に道場開きができた。ここでも、大先生にご出席いただくためにお願いに歩いたのは榑崎先生であり、改めて先生の人脈の大きさと普段からの人とのお付き合いを大切にする姿勢を勉強させられた。

「うちもそろそろ実業団大会に出場するか。」という先生の一言で弊社（当時伊田組、現伊田テクノス）の剣道部が発足し、平成元年の関東実業団に出場した。当時は男子が4名しかいなく、流通経済大学で先生の教え子であった女子を次鋒にしてベスト16まで進んだ。大会後、「剣風がいいと評判だ。」と言って、先生が上機嫌でいたことが印象的であった。

体が丈夫で気力にあふれていた先生が突然に入院した。先生は「巢鴨の食事当番の時、大釜がひっくり返り大きな怪我をした。その時の輸血が原因で発病して治らない。」と言った。平成12年9月2日旅立った。先生の人生は戦争に翻弄されながら、持てる力を精一杯発揮した人間力豊かな人生であったと思う。

埼剣連と榑崎家の合同葬は、大久保和政先生を始めとする多数の先生方の懇切丁寧なご指導の下に、東松山支部が主管となり執行した。お陰様で、榑崎先生を慕う人で東松山斎場があふれるほどの盛大な葬儀も何の混乱もなく、しめやかに執り行われた。若い時から苦難をともにしてきた奥様と二人でしずかに眠る東松山市内の墓には、いまでも先生を慕う人が訪れている。

先生は、若いころはタイヤにのった素振りや裸足の駆け足など体の鍛錬を、晩年は、「地平線から上る朝日を飲み込む。」といって精神の鍛錬を怠らなかった。先生は、私たちが小学生の時には「遠くの山を打つように面を打て。」と教え、「捨てる。打ち切る。」を信条にしていた。そんな先生がベッドの上で、「剣道は簡単だ。相手が打ってこようとした時に、チョンと小手を打てばいい。」と言った。これが、私が先生から聞いた最後の言葉である。剣道の追求に人生を捧げた先生は最後にどんな風景を見ていたのだろうか。



明治村優勝

新八段紹介

八段昇段にあたって

増田健一（警察支部）



この度、5月2日に京都市において行われました、剣道八段審査会において合格させていただくことができました。これもひとえに、これまでご指導いただいた諸先生、先輩、同僚、加えて剣を交えていただいた、剣友の皆様のおかげと、心から感謝しております。

今回、合格させていただいたわけですが、過去の審査を振り返っての反省は、「有効打突を奪いたい」という邪心が強すぎ、打突に至るまでの攻めが疎かになり、結果、溜めのない打突となってしまっていたことです。「無心で審査に臨もう」と思っても、無心になれる境地には達していないことから、今回の審査においては、「正しい姿勢、充実した氣勢、溜め、打ち切る、打ち抜ける」ことを意識して臨むとともに、今までの稽古の成果をすべて出し切り、自分の剣道を審査員の先生に審査していただくという気持ちで立ち会いました。

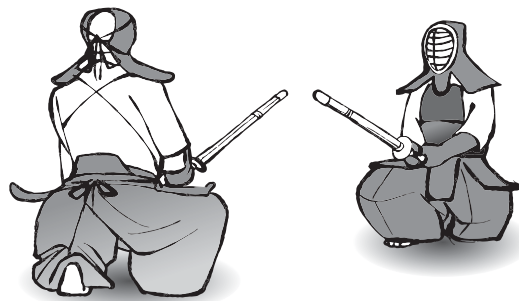
稽古に関しては、今年の春から職場が変わり、以前の職場よりも稽古を行う機会が減りました。しかし、逆に、「次はいつ稽古ができるかわからない。しばらく稽古ができないかもしれない。」という気持ち持つようになりました。しかし、変な焦りやストレスと感ずるのではなく、逆に1回の稽古、一人の先生との稽古、極端な話では、打ち出す技の1本1本の技を、今まで以上に集中して、かつ課題をもって取り組むことができました。

また、現在、少年指導を行わせていただいておりますが、少年指導の基本稽古の際には、少年たちへ指導していると同時に、基本稽古の重要性を自らへ言い聞かせていたのかもしれない。

稽古以外では、稽古時間が確保できない事を想定して、早朝の素振りやランニングをしたりして、自分なりに、剣道に活かされると思われるべきことを実践してきました。どうしても、身体を動かすことができない時には、防具や竹刀の手入れをするなどをして、自分の一日の生活の中に必ず剣道を組み入れるようにしてきました。

このような中で、一番勉強になった稽古については、埼玉県剣道連盟に開催していただいている、「八段講習会」でした。この講習会においては、八段の先生方に口頭でのご教授をいただいた後に稽古を頂戴し、そこで細かい部分に至るまで、ご指導をいただくことができたことです。頭では理解していても、実際には身体は動かない、ということはよくあることと思いますが、そのような部分についても、「なぜ、動かないのか、どこが悪いのか」などをご指導いただき、理解することができました。そして、稽古後には、ご指導いただいた事項を自分なりに咀嚼し、一人稽古などで自分のものにできるように反復習得に努めていきました。その結果が、今回の合格につながったのではないかと考えております。このような稽古にお付き合いいただいた先生方に対して、感謝の気持ちでいっぱいです。

今後は、これまで以上に稽古を重ね、八段の名を汚さぬよう精一杯精進していくとともに、埼玉県剣道連盟発展のために微力ながらも尽力していく所存でありますので、今後も何卒ご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。本当にありがとうございました。



編集後記 平成29年度・30年度の埼剣連新体制がスタートしました。山中新会長のもと、川合育三広報・啓発部会長以下、河野喜八郎、尾崎勝美、豊嶋正夫、佐藤忍、宮下達也、瀧澤利行の面々で13号、14号、15号、16号をお届けすることになります。これまで以上に充実した体制で臨めることになり、内容的にも剣道・居合道、杖道はもとより、修道に関わるさまざまな内容をお伝えできるよう、部員全員で尽力したいと考えています。今後ともご鞭撻いただけますようお願い申し上げます。（なお、本号は前体制での編集であることを付言いたします。）（瀧澤利行）